

## 三沢市立三沢病院での小児科実習を終えて

弘前大学医学部医学科 5年 安西良介

この度は、2週間という短い期間ではありましたが、三沢市立病院小児科で実習をさせていただき、誠にありがとうございました。江渡先生をはじめ、小児科の友希先生、峻先生、小谷先生、舘田先生、田中先生には大変お世話になりました。大学病院での小児科実習では、先天性心疾患や白血病、小児がんなど重篤な疾患を多く経験しました。一方で、三沢市立病院では、インフルエンザや感冒、便秘など比較的軽症の疾患の患者さんが多く、大学病院の実習ではなかなか見ることのできなかつた症例を数多く学ぶことができました。大学病院だけでなく、地域病院で実習を行うことの重要性を強く実感しました。すべての先生方の外来を見学させていただきましたが、患児や保護者への



の接し方、診療の進め方はそれぞれ異なり、患者さんに寄り添う姿勢は十人十色で、毎日多くの学びがありました。特に印象に残っているのは、友希先生の外来です。1組の診察に30分以上かけていらっしゃる場面があり、外来にこれほど時間をかけるのかと衝撃を受けました。診察後に「外来は病気を診るだけでなく、その人を診る必要がある。だから私は患者さんの話を遮らず、すべて聞くようにしている」とお話しされていたことが非常に心に残っています。将来、私も友希先生のような外来を行いたいと強く思いました。また、朝夕の回診では、江渡先生が意思疎通の難しい難病の患者さんに丁寧な声をかけ、真摯に向き合っておられる姿が印象的でした。回診は状態確認の場という認識を持っていましたが、回診においても患者さんと向き合う姿勢を大切にしたいと考えようになりました。さらに在宅治療を受けている患者さんのお宅を訪問する機会もいただきました。寝たきりで医療的ケアを必要とする小さなお子さんが3人おり、ご家族の負担の大きさは想像を絶するものであり、身近にこのようなご家庭がいらっしゃることに衝撃を受けました。医師だけでなく、多職種が連携し、行政・病院・家庭が一体となって支援することの重要性を強く感じました。そして、医療的ケア児とご家族を支える体制づくりは不可欠であると改めて思いました。そのほかにも、1か月健診や3か月健診、予防接種など多くの場面を見学させていただき、小児科への興味がさらに深まった2週間でした。短い期間ではありましたが、最終日には実習が終わることを寂しく感じるほど、充実した時間を過ごすことができました。最後になりますが、江渡先生をはじめ、友希先生、峻先生、小谷先

生、館田先生、田中先生には、お忙しい中にもかかわらず、温かくご指導いただき、貴重な見学の機会を数多く与えていただきましたこと、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

実習期間：2026.1.13～2026.1.23